



五ノ一

全十冊曲亭主人著編

里見八丈傳第八輯

五

下帙

五之卷三十下

丁子屋平兵衛板

表年將半丁



紅毛の犬 小形 又名 又名 又名

新奇八犬  
八行傳  
曲亭精著  
二四篇

柳川重信画



紅毛狗形小自和希蒙以魚  
肉琉球芋等物若以蒸米湯  
肥大而不宜食神神氏西  
國者信也

第八輯下秋  
文溪堂印發

紅毛

八犬傳第八輯卷第五附録  
江戸麻布長坂の四ヶ軒をまみ穴をいふ名を地名をいれ和名をいふ一治涼が江戸砂子  
雌狸と書きし雌狸をいふ義の何と據るや名をいふか。貝原益軒の大和  
本草あり猫をいふこと。篤信云て。ミタヌキトモ云野猪ニ似小ナリ形肥テ  
脂多ク味ヨクニテ野猪ノ如シ肉ヤワカ也穴居ス其四足ノ指各五恰  
如人手指獵師虎ヲスベテ捕之行クト口避ニ獲ル猫ノ類ナリ狗ニ  
タリ並ニ穴居スといふ又本草綱目五十一。獲の下小指若水。和名之刺  
入々てことと。李時珍云。猫猪權也。權狗權也。二種相似而畧殊。狗  
權似小。狗尖。喙。短尾。深毛。褐色。皮可爲裘。領といふ。如也。和  
和名をいふことと。獸名。一。血。軒。若水。の二。老。公。羽。一。ハ。猫。を。い。ふ。と。訓。一。ハ。  
權をいふことと。讀せり。記。小。事。記。を。修。世。俗。の。稱。呼。は。從。之。於。今。皆。如。之。











らんと眼へる氣色は憚らば、壯俊の口徳り、齊一後方て之れが  
達一、拔り車より乗せし、逃るる、竊推言二隊の壯俊、舟も氣深  
置り、舟も果し、舟の中、一兩名、舟の鏡のあり、罵り、已ぬ、壯俊を推  
鎮め、其舟を退るる、舟も、大衆、舟も、立、取、ひ、額、を、集、め、高、議、の、折、を、這  
か、を、名、あり、領、り、あり、笑、あり、既、高、議、果、を、野、計、の、莊、客、二、名、あり、や、衆  
人、立、別、れ、穂、北、へ、走、り、登、時、壯、俊、を、鎮、め、る、件、の、莊、客、一、兩、名、堤、の、下、  
拔、り、舟、を、對、ひ、微、笑、あり、小、舟、を、屈、め、り、補、達、え、せ、也、か、理、も、非、也、ぬ、壯  
俊、の、言、ふ、を、思、い、太、く、之、禮、を、待、め、と、勸、解、れ、現、八、大、角、の、共、侶、點、頭、七、人、小、舟、  
達、俊、の、言、ふ、を、信、容、と、し、愈、疑、ひ、を、釋、れ、軟、と、問、文、え、れ、さ、し、の、衣、箱、と  
是、本、の、漁、見、の、言、の、趣、言、す、と、る、疑、め、又、云、云、と、の、み、あ、わ、ね、と、い、ふ、せ、ん、衣、箱、  
舟、の、衣、袋、あり、是、東、人、の、東西、あり、那、盜、見、の、何、前、於、駝、搭、逃、け、を、想、い、の

及、い、と、空、を、不、解、あり、那、盜、見、と、捕、捉、び、て、惣、ま、の、袋、箱、と、の、會、を、選、ら、い、東  
人、の、僮、僕、を、疑、へ、た、れ、願、ひ、刀、補、達、前、の、傷、を、東、人、の、宿、所、に、到、り、那、盜、見、の、為  
体、と、前、に、説、知、ぬ、初、も、一、舟、の、名、を、會、得、せ、れ、ん、と、義、を、兼、引、の、ひ、  
か、と、馮、む、を、現、八、と、い、ふ、意、味、あり、何、れ、何、れ、の、東、人、の、宿、所、に、這、里、あり  
遠、く、や、原、是、言、家、村、長、秋、從、類、を、あ、ら、う、白、晝、盜、賊、の、名、を、知、り、是、等、の  
東西、と、名、稱、化、れ、故、の、と、欺、甚、磨、を、と、再、向、へ、ん、と、い、ふ、舟、の、東、人、の、穂、北、梅、田、村、原、這  
三、舟、も、舟、も、氷、垣、殘、三、復、行、と、喚、做、を、御、士、の、内、儀、の、星、表、は、世、を、ま、り、家、あり、重  
舟、と、喚、做、言、ひ、一、箇、の、女、兒、あり、三、輪、を、り、比、落、船、餘、之、七、有、種、と、い、ふ、壯、俊、と、女、兒、あり、  
田、園、の、業、を、任、用、し、て、身、の、宿、所、を、甲、斐、今、朝、も、背、負、の、積、載、小、舟、の、分、り、と、又、出、く、舟、を、  
去、り、と、空、け、と、僮、僕、の、言、ひ、因、る、東西、を、出、さ、う、修、復、の、時、の、程、り、か、生、平、あり  
後、れ、一、舟、飯、を、皆、な、へ、と、思、ひ、跡、の、心、つ、る、と、等、時、危、厨、を、退、り、折、と、想、い、盜、見、が







この方々へと云ふ所は請も登せぬ母屋の外を這うとて庭の折戸を高く開け  
一個の若者黒い出でる世智老はあやむと伺ひ答へ世智介は那盗見と想走  
去り皮箱を合ひ歩みぬ旅人達をまよけ快用とていつか心と回る  
我之近着丸鎖と投げ誘とぞ二大士は揖讓を先とて書院の  
内へと當下世智介小才二は不共名に其客中咸二大士の後を跟る  
け介程に現八大角八又若者黨は案内を兼ね難貨庫の後を  
路を准備せり程に共侶は大地を馬料と踏破り吐痰は吐き程  
奇のぞ愕然と仰返り坎弁は後方に立ち衆人の獲ちやと  
聲を聞かす世智介は世智老の聲を聞き跳入り折衝を現八と大角とを  
宙より推抗の上形衆人受合ひて終極と推居る登時現八大角は  
声を聞かす世智介は世智老の聲を聞き跳入り折衝を現八と大角とを

世智介の聲を聞き  
世智老の聲を聞き  
世智介の聲を聞き  
世智老の聲を聞き

較る故欲偽り江忍人の本性賊多し是非義非法今作り又若何の道理之  
益は似たり主人と喚び對面し市虎の懸念を言下し解ん快喝せりと敦固  
直まるとて幸林は壯俊の後方より世智介共侶共推居る現八大角を見  
令其以遠盗見のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
衆人の鎖めく首尾を討り謀り鋒の手段を説示え御向は俺は勢有り身は  
帯もめく捍棒農具のもれ若何の両刃は取易き毛を吹く疵を求ん  
らせ却東人は縛の由と計畧の意を教知當りて這里を推備あり遠指り  
近層倉庫の修復より這頭の壞を穿取れる跡を終日ありて思起せし佳妙





新刃の銚子丸九見の東邊獲よりと教ひて準備をり等程に老僕世智介小才二合  
獲し衣箱と一個の妝篋とを採りて衆人と共侶に大飼大村二勇士は尻尻被り幸立  
まの先衣箱と縁類とを却りて声高き大老を節まらぬと計りて盗見を捕捕て  
ひびや出させると語りけり登時主人夏形は驚き折たて用立て那重黒重斬柄掛き刀を  
持て縁類近く出さるるを現へ大角の膝もせと怒視する最堅固なる老入を  
絞る頭の前相枯野の小草を執りて如く肩立言松の層の深山に立木似より精  
石は面の色二星を吹く眼の光りさぬ一枚の髪を脱ぎ膝の押のりたるを精  
及るへもささり一身の段々の助に渡儀言仁田山嶽権錦袋を悉く解組の圓帯を骨  
高を結びの上赤煉竹色の道服を下短衣を被領するも馬俵田舎備て鳥多死  
嶋の蟪蛄取羽織の世の中月毛を短と組糸の管の中片襷斜に掛く奇  
めは武弁氣質の起原暴も四下を睨見立ると大衆散ひ跪くは中世智介小才二両

個の老僕も笑ひて頭を握り膝を打ち大老を御覽せよ先編去らん衣箱に千住堤の  
頭あり合を獲りひひれ又這箇の盗見之稱宿所まゝ誑引寄せよ弁掛く生柄もま  
まの計の趣の御高は注進の爲もあもる壯伎の口状も大抵知せばひは捕捕と盗見  
何の則に承ゆとらひつ傍とえこれの旨も野馬頭もも値優る若のけの挿江を愛  
た一備小色小ト居る地をひら自辰を勧め穂北梅田柳原の三御と再無事も既り四十  
餘年上は宿領主より下は百姓民も今異國の泊羽ふり耕をり刀を膝へ懸り力  
戦を推へ秋歌も書きを難るるが御見武勢も疎りて中権三御の人の心一致して勇  
るが心守り備り朴も足るを和を以争ひり夜更鐘は盗賊入るを路を遮り  
東西を拾ひ併俺武勇の致と所と遠近人もまたたけり近居河より遠方より盜賊  
あり徘徊して生るるのありか搦鬼あんとあひの言葉果てく連なり人よりゆる  
俺宿所賊の土足は誇りて刺武臣を宿頼むる谷実是より衰へる勢御人子侮



班の上の迹を送りて這片袖に腰を懸け驟雨の天衣を肩に担いで比るに其心其状に襦  
袢の片袖を穿てあつた人衆人心をこぼれと戸へ大家さへ剛才這奴們兩名を細折初に足  
す左に立る盗見の襦袢を断離れし片袖を一つも此後相似言渡意木綿でひと  
りて大角えうて人々知る所ありて俺這襦袢の片袖を束ひつて入城かゝる兩個の賊を  
捕へんと推し折し引離れしと風吹れり川へ落せしをいふにやあつたはとらも果  
夏ゆり呵々とち笑ひてはまて證據分明なるをいふにやあつたはとらも果  
道にん蹤ざり臥倒せしと實にと氣圍けし既し懲りし衆人の美事とせざるの  
又此方より蹴られやん棒の足と拵ん杖たしとやみ右見物と困り難しかな  
夏ゆりいそ焦燥りしかば此の弱虫們が其腹の和せる兩個の賊は今も怖るこやあ  
壁に保輔張契し提さる男の術ありと重宝掛り細りし襦袢の裏に隠し置きたる  
兄とちと後方より若き若き持せし刀を横合しと驚ひ猛く縁類より走下んとせし程は

此の片袖を穿てあつた人衆人心をこぼれと戸へ大家さへ剛才這奴們兩名を細折初に足  
す左に立る盗見の襦袢を断離れし片袖を一つも此後相似言渡意木綿でひと  
りて大角えうて人々知る所ありて俺這襦袢の片袖を束ひつて入城かゝる兩個の賊を  
捕へんと推し折し引離れしと風吹れり川へ落せしをいふにやあつたはとらも果  
夏ゆり呵々とち笑ひてはまて證據分明なるをいふにやあつたはとらも果  
道にん蹤ざり臥倒せしと實にと氣圍けし既し懲りし衆人の美事とせざるの  
又此方より蹴られやん棒の足と拵ん杖たしとやみ右見物と困り難しかな  
夏ゆりいそ焦燥りしかば此の弱虫們が其腹の和せる兩個の賊は今も怖るこやあ  
壁に保輔張契し提さる男の術ありと重宝掛り細りし襦袢の裏に隠し置きたる  
兄とちと後方より若き若き持せし刀を横合しと驚ひ猛く縁類より走下んとせし程は



小野の還るを俟て那人々々を之れが牆を潜りて逃亡す盜賊ハ那旅人於別入る於立地竟  
疑ひを解ちて捉經はさすはれ既に這て來りて林に立ちて名を知ぬ那旅人の與の  
るを罪疑い加めて殺せんとす孫の世まゝ世を受るとその物の本も作らば賢慮を  
旋しひねかと稱を原義と推し獨惑以賢女の諫言耳は逆へと夏秋ハ秋ハ月  
愛入女の情腹もはなむ諾ひもせど又うかしく冷笑ひて憐むおののそも慰むそ  
是婦人の仁いつり隨は彼を形ハ難言は刃を借るに似て世の胡慮もなんの之牆を  
潜りて盗見を認り小野ハ浴巾吉他ハ南へ這りて一隊の追捕と俱りてかへ  
ねと還るを俟て又まの目ハ正しに證據の片袖ありて棄てて今ハうらや二十  
と足ぬ小野子の一言隻句を奪うあんなや朝の炊の身ハ夏秋に衣の備は難し  
一厭う云云とのそを相成怒る傷痛ハ女子の裁刺蓋ちん意見ハ膝ハ耳ハ  
狭く立ちて立寄りと重戸を推返りて熱まゝに思ふる力及ばず何れも餘之七刀袖

た還下を況やけハ母刀自の三日日ありてせぬ憤り紛れ志れぬの軟弱を相立まゝ呵責を  
林下り那旅人敷索措けぬ遂に虚空の安定を知れ御後悔をばはれ這語り入  
願しんをえそもへと之語話り浮世の秋を身は占る脆ハ涙の夕露路や波が下の女旅  
へねと通く物さの側聞は二大士の體目と自と斬るまゝに本頼と慮りて十室の  
邑すも忠信ありとひり余ハ悍る夏秋も昔の道理は迫れ沈吟するを早响許すを  
く小領にやよ室戸の趣復し由あり日層萬古を任し有種もやと思ふも且  
亡者の命日忌辰は非也罪人ありとて殺せんとす要るは所給るへはれれれの願ひは佳し  
程まゝ一室に用筆措人候腕折る折るもはなむ流るこ然と慰め外面をさすを  
衆人のつらさをせん盗見ハ那里る血樹室に閑坐見ず緊しく鎖し一両名を  
送代ハ成堂又那奴ハ兩刀と只一箇る包裏ハ堂戸且預り措き有種もかりあり  
世に又せよと高臺より情狀を被る施見ありとせ然るを承り九人衆人由信











時現八先... 舟内... 候... 御... 長... 志... 今... 後... 復... 令... 福... 苦... 樂... 共... 皆... 同... 爲... 同... 日... 死... 人... 也...

二兄のうた

舟... 大... 角... 二... 兄... 弟... 再... 會... 舟... 内... 候... 御... 長... 志... 今... 後... 復... 令... 福... 苦... 樂... 共... 皆... 同... 爲... 同... 日... 死... 人... 也...





あつたれども共信は首を被り横臥し登時兩個の信高師ハ持て管廻引抗て信乃道高師  
咽吭と刺申んと同めを信乃のり入道節も臥て身と反ら寤外化して信高師ハ極子馬  
熟と申れを以てあまの船高師の石突お指と製作を鏡と鑪と異なりぬかの利きり既  
あつた高師ハ突外で心慌て引枝んとせし程は信乃道高師ハ些可透子と身を起し管廻  
此後共引足組を横面を被り蹴倒して鏡と鑪と反回を推懸細く流る船を擧  
止し高師之建敷系を掛り却り却り高師ハ身を起し報捷懸く撃り持向を  
あつた二賊ハ苦痛は堪えず遂に相道する可切の宿りて這船との起臥する尻玉  
河太郎は宿猫野良平と喚ばせぬが筆を算の舞をれ世渡業ハ疎老賭鈔を  
この酒と嗜む徳は底なれ性も俱に悪事とせりて夜毎に這里の河子又の時ハ  
星田河子船と懸て旅人の渡を承とあれ舞悠々と欺詐り船を臥して這着て見  
に殺し盤纏を奪り尻骸を河へ投棄しん哉番小飲ひは信乃夜川子奪り

折ハ近御身人の東西を結りるも屋敷の真四訓終り免まど武藝も長刀折ハ  
あつた虎鬚と曳指の細めて後悔のあま立りなれども今も野心を改め法師なる  
らんとすの願ふ慈眼視衆生の佛心と誓ひひ許させぬと同昔は哀請ふるに  
信乃の冷たて俺が這河具違はまより折若ハの這船あつた信高師ハ東西を論して云  
りふ声の渡りて今もあつた船り東西を分るとり損益を論せりん這あつた甚  
又責問れりこれと隠しりて信乃野良果がしは御推量日違はせりて河太郎と  
共侶も棟北の御士の宿所を覗ひ背門も在船あり折河太郎ハ迅速く其頭をのり衣箱と  
めまをちりてりし可なり東西を取ると鏡と鑪とを離せと滑りて地をたれり  
小可の旅の武士の送る袂を擧げひりて走る武士の遺りて這意を論の頭ハ河太郎ハ  
衣箱と脚と總ひりてん後を論り折河太郎ハ武士と懸りて挑こりかきめり信高師ハ  
左右ハ被れり命も傷り危りて河太郎ハ可なり折河太郎ハ河に渡りて折河太郎ハ



橋小舟の両賊と細折初を見ち那野良平の被る襦袢の左の地袖より一羽の鶴  
北の御士の宿所まで送り襦袢の袖は野良平の逃るる物に破れ送り大村主の地袖と此  
彼暗合をとり御士の疑ひ解き難文と皮びんを所収るるをみか今宵野良  
平河太郎と御士の宿所へ送りて示し寛屋と誦ま九愉快といひ一那行裏も  
船は存且両賊と一見し行裏を取收め俱に穂北に赴くべしと云ふ大角現八も雀躍去  
言不勝の勢ひ共は満面笑ひ顔と御鏡と改修信乃道節もち對ひて宿所の突憑  
今宵宵料らと和君御も環會ぬるも一賊と捕捕りぬの末に幸は誘然と云  
船は到り俱に二賊を牽立り水垣を宿所は赴てんと云ふと云ふは只官感して已りて  
去のいきさつ  
信乃道節のゆもいと先立り共信は船もち乗りた及落し船折は懸き野良  
平と河太郎と大角現八は及び先月と獨り又れば果しと云ふ二賊は橋より十住堤  
いり水と潜りて逃るる人ゆであはれは高ひ眼へてされ盗見認るれば俺は若御

送指ける衣箱と襦袢の袖の救は分明なね衣箱の主存百文の疑は因れて不慮の難  
及びかも神明佛陀の眞助もうけ一夜の過る若御をえや這所は獲りしは是は眞野  
第兄の賜のるを知らぬと對せし置し野良平と河太郎は駭然御視哀  
請んとおひけん立る藤と折布を脱んとや程は現八も枚寄り二賊を撲地と蹴倒し  
忍も抱き声言同や言盗見們の言何事といえと云ふ若御故をいへんは俺も水垣不圖  
れは美里の多ひて做され俺は御神取の雪の目黒の環の旗をち善悪必忘教の天四訓信  
不ぬべれは知るや置置し跡跡らんと云ふ大角現八は推林示りてや大角生信今  
春俺們が濡衣を乾き時をある那債を洩えと云ふ捷り雪をた所はる大塚大出而  
箇の理會もち儘いぬと云ふと云ふ現八有程と云ふ着の怨退たり當時信乃道節も  
大角もち對ひて大村和殿の在頼れ行裏は這里に在り快展檢り受取ぬといひて遊  
袂色と大角も受取ぬ是は二兄の賜の内の常用の爲と云ふ置言八九両の金のあり





有りぬきと  
西側の盗見と生有り  
緊く林業獄  
逃七、往方を知り程  
女婿共信り  
有種入る盗賊  
見と生有り  
有り且他  
有種入る盗賊  
見と生有り  
有り且他  
有種入る盗賊  
見と生有り  
有り且他

太も想網  
買の鏡  
士と強人  
虎の足  
刃頭  
大角  
夏  
極  
大角  
然  
甲



徳正  
子



追難る衆人の

里の海内は雙の胆勇武藝は教馬に呆れ... 持る鎧を打落され... 其の首をえとせと... 激吉の... 返りし底阿谷々々と返巡し...

喜も... 又も... 水垣の... 今宵料... 橋向... 志を...



津々末の折這奴們を頼り謀り殺す船... 青白ひの苦痛を堪へ憐れと相道より... 這里にまはれぬ絶えぬ... 合は復しと勢ひの折し和主... 盗前の如く今一番... 徳と那衣箱の多袖の又大角の行裏... 盗前の如く今一番... 徳と那衣箱の多袖の又大角の行裏... 盗前の如く今一番... 徳と那衣箱の多袖の又大角の行裏...

里見八犬傳第八輯卷之五終

天保三年辰年

春之月十六日燈下稿了

附錄之丁五月廿四日追稿之

著作堂文集

筆 福 硯 齋

大 吉 利 市